

開催日時：2002年8月19日(月) 17:00~20:20

場 所：ぱ・る・るプラザ京都 6階会議室6

参加者数：委員6名 河川管理者8名

1 検討内容および決定事項

水需要管理WGとりまとめについて

- ・ 今本リーダーより資料1-1「水需要管理とりまとめ(案)020819」が、荻野委員より資料2-2「論点別WG水需要管理・水利権」が骨子案として示された。
- ・ 第14回委員会(9/12開催)には、水需要管理のとりまとめの骨子を報告できるよう、次回のWG(9/10)まで、メールにてとりまとめについての意見交換を行う。
- ・ 節水についてとりまとめの中で明確に位置づけるべき、一度取水した水を施設内で繰り返し使えるゼロディスチャージシステムの実現についても検討すべき等の意見があった。

水質の問題について

- ・ 水質の問題について様々な観点から意見交換がなされた。その結果、水質については水需要管理の面からだけでなく多面的な視野で検討していく必要があるとの認識が強まったため、新たに水質専門のWGを作るように委員長に要請する。

情報提供と意見交換

これまで河川整備に携わってきた方として金屋敷氏を、市民の側から利水に関する調査活動を行っている方として野村氏をお招きし、情報提供および意見交換が行われた。

a) 金屋敷氏からの説明

- ・ 琵琶湖は明治36年以来人為的水位操作を開始し、琵琶湖総合開発完了の時点では以前より平均水位が85cm低下している。人為的水位操作を以ってダム化と言うならば100年前からダム化している。
- ・ 琵琶湖総合開発事業は水に関連した周辺地域の多面的な整備事業である。その為の調査も多面的に実施し、特に琵琶湖水産調査は当時の最高水準の学識者による物理的、生態学的な研究調査を行った。壮大な先駆的環境影響調査であった。
- ・ 何故水需要管理と水質管理が難しい問題であるかを説明。
- ・ 特に河川維持流量とダム貯水池の不特定容量の重要性について強調した。

その後、環境維持用水の重要性等に関する意見交換が行われた。

b) 野村氏からの説明

- ・ 大阪市の過剰な水利権、淀川下流部の農業用水の問題点、大阪府営水道の過大なロス率設定について説明が行われ、現在の水の使用実態からみて余剰な水利権の転用や過剰な水需要予測を見直すなどすれば新規のダム開発は必要ないとの主張がなされた。その後、農水の多面的な役割、環境用水としての位置づけの重要性等について意見交換が行われた。

次回のWGについて

第5回水需要管理WGは、9月10日(火)17:00より行う。今回は、節水の工夫や仕組みについてご教示できる方をお招きする。推薦できる人がいれば、庶務に連絡を行う。

このお知らせは委員の皆様に必要な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させて頂くものです。詳しい内容については結果概要をご覧ください。